

商品名 ウロナーゼ静注用6万単位 医薬品基本情報

薬効	3954 ウロキナーゼ製剤	一般名	ウロキナーゼ注射用
英名	Uronase	剤型	注射用
薬価	9400.00	規格	60,000単位1瓶
メーカー	持田製薬	毒劇区分	

ウロナーゼ静注用6万単位の効能・効果

脳血栓症、末梢動脈閉塞症、末梢静脈閉塞症

ウロナーゼ静注用6万単位の使用制限等

- 出血性脳梗塞を起こしやすい脳塞栓、咯血、後腹膜出血、止血処置が困難、頭蓋内出血、脊髄手術＜2ヵ月以内＞の既往、脊髄損傷＜2ヵ月以内＞の既往、頭蓋内手術＜2ヵ月以内＞の既往、頭蓋内損傷＜2ヵ月以内＞の既往、動脈瘤、重篤な意識障害、脳塞栓又はその恐れ・疑い、デフィブロチドナトリウム投与中、出血又はその恐れ・疑い
- 感染性心内膜炎、心房細動、陳旧性心筋梗塞、人工弁使用、僧帽弁狭窄症
- 月経期間中、手術、外科的処置時、出血、出血性眼疾患、消化管出血、糖尿病性出血性網膜症、尿路出血、分娩直後、流産、肝生検時、腎生検時、頭蓋内出血の既往、出血又はその恐れ・疑い、活動性結核、重症高血圧症、消化管潰瘍、大腸炎、消化管憩室炎、治療困難な凝固能低下状態、凝固因子欠乏症、血小板減少症、血液凝固阻止作用を有する薬剤投与中、血小板凝集抑制作用を有する薬剤投与中、血栓溶解剤投与中、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、ゼラチン含有製剤に対して過敏症の既往、ゼラチン含有の食品に対して過敏症の既往、重篤な腎障害、重篤な肝障害

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止
記載場所	使用上の注意
注意レベル	原則禁止
記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

ウロナーゼ静注用6万単位の副作用等

- 出血性脳梗塞、脳出血、消化管出血、重篤な出血、脳内出血、出血増大、出血性ショック、ショック、血圧低下、呼吸困難、胸内苦悶、脈拍異常、発汗
- 過敏症、蕁麻疹、倦怠感

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明
記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

3. 発疹、出血傾向、血尿、歯肉出血、AST上昇、ALT上昇、悪心、嘔吐、食欲不振、発熱、悪寒、頭痛	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満
4. 出血性脳梗塞	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
5. 出血	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
6. 重篤な出血性脳梗塞、出血性脳梗塞、ショック、アナフィラキシー、蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫、脳塞栓、胎仔死亡、胎盤早期剥離	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

ウロナーゼ静注用6万単位の相互作用

1. 薬剤名等：デフィブロチドナトリウム			
発現事象	-	投与条件	本剤投与後24時間以内
理由・原因	-	指示	禁止
2. 薬剤名等：肝類洞閉塞症候群治療剤			
発現事象	出血の危険性が増大	投与条件	-
理由・原因	デフィブロチドナトリウムが本剤の抗血栓作用を増強	指示	禁止
3. 薬剤名等：デフィブロチドナトリウム投与後24時間以内			
発現事象	-	投与条件	デフィブロチドナトリウム投与後24時間以内
理由・原因	-	指示	希望禁止
4. 薬剤名等：血液凝固阻止作用を有する薬剤			
発現事象	出血の危険性が増大	投与条件	-
理由・原因	相加的に出血傾向が増大	指示	注意
5. 薬剤名等：血小板凝集抑制作用を有する薬剤			
発現事象	出血の危険性が増大	投与条件	-
理由・原因	相加的に出血傾向が増大	指示	注意
6. 薬剤名等：血栓溶解剤			

発現事象	出血の危険性が増大	投与条件	-
理由・原因	相加的に出血傾向が増大	指示	注意

7. 薬剤名等：アプロチニン製剤

発現事象	ウロキナーゼの線維素溶解作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	アプロチニンはプラスミノゲンアクチベーターやプラスミン活性を抑制	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』